

2008年12月17日発行

エコ・リサ通信

第65号

特定非営利活動法人 埼玉エコ・リサイクル連絡会広報

エコ・リサ環境学習会

報告

「埼玉県内ですすむ 環境保全型農業と食品リサイクルの今」

赤いテープのお野菜、お店で出会ったら購入していますか？

埼玉県民が取り組んでいる有機100倍運動の効果、知りたいですね。

埼玉県では、環境にやさしい農業の推進と安全・安心な農産物の安定供給の実現に向け、「平成22年度までに農薬と化学肥料を50%削減」を目標とする「彩の国有機100倍運動」を平成9年度から県民運動として展開しています。エコ・リサでは、10月16日(木)午後1時半から ソニックシティビル708号室で、若い学生さんも含め参加者22名が集まり、埼玉県の担当者に進捗状況をお聞きし、活発な意見交換を行いました。(内容について、詳しくは2~4ページをご覧ください)

資源循環推進課コーナー

埼玉県ではマイバグの利用促進やレジ袋の削減に事業者、消費者団体及び環境団体と協働して取り組むため、9月22日(月)に協定を締結しました。

この協定を機に、県内店舗においてレジ袋無料配布の中止が進むよう、協定締結者が連携して取り組んでいきます。

さらに、県では地域におけるレジ袋無料配布の中止を進める取組を市町村と協力し、支援していきます。

なお、協定に参加した事業者及び団体は次のとおりです。

●事業者(18事業者)

イオンリテール(株)、(株)イチワタ、(株)イトーヨーカ堂、(株)エコス、(株)オザム、(株)カスミ、生活協同組合さいたまコープ、サミット(株)、(株)ダイエー、(株)とりせん、(株)ベイシア、(株)ベルク、(株)マイカル、(株)ヤオコー、(株)ヤオヨシ、ユニー(株)、(株)ヨークマート、(株)与野フードセンター

●市民団体(3団体)

埼玉県消費者団体連絡会

特定非営利活動法人埼玉エコ・リサイクル連絡会

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター

(特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉)



協定締結式

「埼玉県内ですすむ 環境保全型農業と食品リサイクルの今」

(1) 有機100倍運動の取組み

埼玉県農林部農産物安全課 職員 小野寺氏

①【農薬の削減】については、菖蒲町いちご連合会の太陽熱消毒や天敵ミヤコカブリダニを利用した事例 ②【化学肥料削減】については、川越有機グループの川越市内の落ち葉と狭山市の養鶏農家の鶏糞を堆肥化する事例 ③国の「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づき、環境にやさしい農業に取り組む計画を作成し、県の認定を受けた農業者である【エコファーマー】を育成している。実践する農業者を【エコファーマー】に認定し、5年間かけて徐々に農薬削減に取り組んでゆく。④県が定めた慣行栽培基準（都道府県によって気候などの違いにより基準値が異なる）と比較して農薬と化学肥料を50%以上削減して栽培された農産物【特別栽培農産物】の認証面積割合は、水稻53%・野菜38%（上位：こまつな・ブロッコリー・ほうれんそう）⑤特別栽培農産物のPRと利用拡大のため、県が特別栽培農産物を利用している飲食店を指定する【特別栽培農産物利用店指定制度】を導入している。

特別栽培農産物に係る化学合成農薬の使用回数及び化学肥料による窒素成分施用量の基準(例)

【特別栽培農産物】
県が定めた慣行栽培基準と比較して、
農薬と化学肥料を
50%以上削減して
栽培された農産物

作目	作型	は種時期 (水稻は移植期)	単位：農薬(回)、化学肥料(kg/10a)			
			農薬使用回数		化学肥料施用量	
			慣行的 使用回数	5削減 使用回数	慣行的 施用量	5削減 施用量
水稻	早期栽培	4中～5上	14	7	6	3
	早植栽培	5上～5下	12	6	6	3
	普通栽培	6上～	13	6	8	4
小麦			5	2	9	4.5
トマト	促成		54	27	19	9.5
	半促成		30	15	20	10
	露地		30	15	15	7.5

安全・安心な農産物の供給について

①抜き取り検査による結果管理に対して、農産物の安全性を高めるため農業者自らが、作業の点検項目を決定し、実行、記録し、点

検評価して次回の作付けに活用するという、生産工程全体の管理をする【GAP（農業生産工程管理）の普及促進】

②JAふかやなど県内4農協で残留農薬簡易分析機器による自主的なチェック体制の整備する【残留農薬の自主検査の普及促進】

③特別栽培コシヒカリを「白岡そだち」の名前でブランド化し町内小中学校に供給するなど【学校給食での特別栽培農産物の利用】は、H19年実績で学校給食利用市町村数12市町。

活動成果

農薬の削減率24.3%（H18）、化学肥料の削減率58.5%（H18）、特別栽培農産物認証面積1,516ha（H19）、家畜ふんのリサイクル利用率97%（H19）、県内農家144,000人の内エコファーマー認定農家4,729人、全体の3.3%（H19）特別栽培農産物利用店指定数92店（H19）

今後の取組み

経済的被害を生じるレベル以下の病害虫の存在を認め、病害虫の密度をコントロールする【IPMの確立・普及】イベントでのPR、パブリシティを利用したPR、売り場の設置・拡大など、【農薬や化学肥料を削減した農産物の需要拡大】

(2) 食品リサイクルの今



と生かしながら、農家の役に立つ実用技術、より安全な農作物のための技術、環境にやさしい生産技術の開発に取り組む。谷市に本所、他6ヶ所で畜産、森林・緑化、水田、園芸、などについてセンターがある。
 として、壁面が花壇になる「壁掛け式トレイ」や、米「彩玉」香気と滋味に優れる「ゆめわかば」などおいしい農産物がある。

農林総合研究センター 安全・安心な農産物を作るための研究

農薬を使わない害虫防除の研究



アブラムシの天敵「テントウムシ」の利用

農薬を簡単に検査する研究



野菜などに残った農薬の検出技術

農薬検査済みの赤いテープを貼って出荷



生ごみの種類

家庭生ごみと給食の食べ残しは、一般廃棄物としてクリーンセンターへ運ばれ、事業系生ごみは、産廃として飼料化工場や堆肥化工場に運ばれます。

届け出されている県内約 50 の生ごみ堆肥の内 7 つが学校給食残渣を利用した堆肥化で、生ごみ堆肥全生産量の内、給食食べ残し堆肥の生産量は約 10%程度にあたる。

生ごみの現状

近年の食品廃棄物の年間発生量はほぼ横ばいですが、再生利用量は食品製造業において増加しており、81%になっている。食品卸売業で62%、小売業で35%、外食産業で22%、食品産業合計で53%である。一般廃棄物の内、家庭系生ごみの再生利用は3%程度で進んでいない。

家庭系生ごみの再生利用は進まず・・・

食品廃棄物の年間再生利用量の推移



※ 「食品循環資源の再生利用等実態調査報告」 (農林水産省統計部、平成14年～平成18年)より環境省作成

表II-1 食品廃棄物の発生及び処理状況 (平成16年度)

	発生量	処分量				
		焼却・埋立処分量	再生利用量			
			肥料化	飼料化	その他	計
一般廃棄物	1,600	1,405	-	-	-	195
うち家庭系	1,070	1,040	-	-	-	30
うち事業系	530	365	44	50	71	165
産業廃棄物	339	74	122	93	50	
合計	1,939	1,479	-	-	-	460

出典:平成16年版環境・循環型社会白書

生ごみのリサイクル方法

飼料化の流れ：①食品廃棄物は新鮮な内に処理・冷蔵庫で保管 ②原料ごとに貯蔵、適切に配合し栄養のバランスをよくする ③高温にして殺菌乾燥 ④ごみの除去・フルイ器で粒度を均一にする

事例：高島屋では、パン等を横浜のプラントで豚のえさに加工し、高島屋でその豚肉を販売。

堆肥化の流れ：①原料は新鮮な内に処理 ②原料には油分や塩分を多く含まないものを ③水分を調整し、よく発酵させる（殺菌消毒） ④異物の除去 ⑤粒度の調整

事例：野菜くずやパン屑などを堆肥化しペレット化するが、今年のような涼しい夏には、売れ残りのすいか8 tが大量入荷したりする。

メタン発酵の流れ：①異物の除去 ②原料を粉碎しながら水と共に流し込む ③空気を遮断し発酵させる ④メタンガスの分離 ⑤発酵残渣液（メタン発酵消化液）の処理

事例：メタン発酵は簡単で、電気・ガスとして利用が期待できるが、発酵残渣液の処理費が、メタン製造のプラントと同じくらい高い事がハードルになっている。

成功事例

小川町では300件ではあるが、生ごみプラントを肥料を作るための施設と位置付け家庭生ごみや給食残渣を使って循環を成立させている。

徳島県上勝町では、町民が各自34種類に分別し、ごみステーションに集められるごみの72%がリサイクルされている。

東京都町田市では、乾燥型の生ごみ処理機を市民に無償貸与して、生ごみの分別収集を勧めている。

問題点

食べ残しの塩分と水分が機械に負担をかけるため、最初の取組み事例の春日部の小学校は機械が壊れ、資金難から堆肥化を取りやめている。産廃業者ルートと異なり、家庭から生ごみを回収するルートがない。食品廃棄物を利用してつくられた農産物を売っている販売店の数や認知度が低い。

生ごみリサイクル、これからの課題

立ち後れている家庭系生ごみのリサイクル、これから私たちにできることは、市民運動として発信していくこと。気長にめげずに活動すること。食品リサイクルでできた製品を積極的に購入、利用すること。そして少しでも自給率を上げるために、購入した食品はまず食べること。

エコ・リサ

ホームページでは、エコ・リサ通信や学習会・見学会の内容などをカラーで紹介しています。14年間の活動内容、研究の詳細が掲載されていますので、『エコ・リサ』と入力して、ご覧になってください。

ホームページ協賛 <2008年4月～2009年3月>

TOKYO GAS <http://www.tokyo-gas.co.jp/area/saitama/> ウエス屋 <http://www.uesuya.com/>

ゴトグループ <http://www.510goto.co.jp/index.htm> ㈱ショーモン <http://www.shomon.co.jp/>

産廃上手 <http://www.ntt-me.co.jp/sanpai-jaws/> 彩の国リサイクルデータバンク <http://www.fuyo-hin.com/>

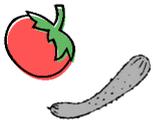
(株)読売旅行春日部営業所：春日部市 <http://kasukabe.yomiuri-ryokou.co.jp/cat472657/index.html>

税理士法人T&Mソリューション：草加市 <http://www.consultant.co.jp/>

㈱珍来総本店 http://www.chinrai.co.jp/chinrai_main.html

パレットモールHOP100 彩 <http://www.hop100.com/> タウンナビ埼玉 <http://www.townnavi.info/saitama/>

(社)日本青年会議所 関東地区埼玉ブロック協議会 <http://necco.info/> 順不同 ご支援ありがとうございます。



環境に優しい私流の堆肥作りとわが家の菜園



所沢市生ごみリサイクル推進委員
所沢市環境推進委員・エコリサ会員

田沢 真佐子

新鮮で安全な野菜を食べたいという思いから家庭菜園を始めて約20年、無農薬、有機肥料にこだわって野菜作りをしています。いろいろな経験をつみながらやっと美味しい野菜を食卓に並べることができるようになりました。

我が家の菜園の様子と力を入れている堆肥作りを紹介して、皆さんの野菜作りの何かの参考になればと思います。

【わが家の菜園】

わが家の菜園は所沢市の東部地区にあり、近くに日大芸術学部のキャンパスがある静かな住宅地に隣接しています。面積は60坪ほどです。

このあたりは江戸時代に開発された農業地区です。所沢市の「下富」「中富」そして三芳町の「上富」の三地区を合わせた地域で三富新田と呼ばれています。今でも江戸時代に開拓された農地の面影を見ることができ、貴重な自然が残されています。そんな大自然の真っ只中にわが家の菜園があります。

わが家の菜園では3種類の堆肥を使っています。コンポスターで作る堆肥、ダンボールコンポストで作る堆肥、これらは台所から出る生ごみが原料になります。そして堆肥の中心となる落ち葉堆肥の3種類です。

ダンボールコンポストは後ほど詳しく紹介しますが、ここではコンポスターで作る堆肥作りと落ち葉堆肥の様子を紹介いたします。

コンポスターは知人から頂いたものも含め3基あります。野菜くずなど新鮮な生ごみの一部はダンボールコンポストで処理しますが、このコンポスターには様々な生ごみを投入します。



一つのコンポスターで約4ヶ月程の生ごみを処理することができ、一年ほど熟成させてから堆肥として使用します。

次は落ち葉堆肥です。毎年11月頃近くの公園と聖地霊園から落ち葉を集めてきます。

集めてきた落ち葉に米ぬかを混ぜ適当な水分を補給して菜園の隅に積み上げます。発酵が進むと落ち葉の内層は50℃を超えることもあり、10ヶ月ほどで落ち葉堆肥が完成します。



落ち葉堆肥の発酵で出る熱を利用して3月頃春野菜の芽だしを行います。落ち葉の上に置いたビニールを張ったボックスの中に芽だしをするポットを入れます。



これは「踏み込み温床」の簡易版で古くから使われてきた手法のようです。

菜園では、トマト、ナス、きゅうり、ジャガイモ、小松菜、チンゲン菜、ニンニクなどの定番野菜の他にのらぼう菜、ミーシー、なた豆など珍しい野菜も作っています。ラズベリー、ブラックベリーからは、毎年、美味しいジャムができています。また、ゲンノショウコウ、ツワブキ、藪甘草、カキドウシ、ビワなどの薬草も栽培し、毎日薬草茶を楽しんでいます。

【ダンボールコンポスト】

ここ数年は何か地球に優しいことが出来たらと、これまで続けてきたわが家のコンポスターによる堆肥作りに加え、ダンボールでの堆肥作りも始めました。コンポスター、ダンボールコンポストのおかげで、わが家の燃えるごみから生ごみがなくなり、ごみ出しが本当に楽になりました。わが家の菜園の堆肥は、コンポスターと落ち葉で作る堆肥がほとんどを占めますが、玄関先においてある

ダンボールで作る堆肥も微弱ではありますが菜園に貢献しています。

ここ所沢では5年前から生ごみ堆肥推進事業を行っています。業者が各家庭から生ごみを収集し、豚ふんと混ぜ堆肥を作ります。出来た堆肥は農家や市民に販売しています。農家の方はその堆肥で出来た野菜を市民へ提供します。循環の輪が出来て来ています。また、さらに広く市民に生ごみの水切りの大切さや個人で出来る生ごみの資源化の方法等を生ごみリサイクル推進委員と市の職員とで公民館等へ出前講座に出かけます。私の担当はダンボールコンポストを使った堆肥作りです。

市の出前講座やイベントでダンボールコンポストを展示し説明をすると、以前より皆さんの関心度が増した感じがします。昨年から今年にかけてテレビで取り上げられたことが大きいのかなと思っています。また、自分が出す生ごみを手軽なダンボールとちょっとした材料で堆肥にかえておいしい野菜や植物を育てられる、そんな一挙両得なエコをしてみたいという人が増えたからかもしれません。一年前のお祭りでダンボールコンポストの説明をし、次の年のお祭りの展示で再び会った時に「ダンボールコンポストを続けているわよ」という言葉を頂くとうれしくなります。

今、わが家の玄関先には二つのダンボールが並んでいます。一つは腐葉土、くん炭、米ぬかが材料のダンボールコンポスト、もう一つはピートモスとくん炭が材料のダンボールコンポストです。前者は内部温度が40℃以上にもなり分解が進んでいるなあと実感できます。後者は外気温とあまり変わらない



温度で、分解はゆっくり進んでいるといった感じでした。

ダンボールコンポストによる堆肥づくりを調べてみると何種類かの作り方が報告されています。いずれも微生物にうまく働いてもらうために水分は60%位（ぎゅうと握った時わずかに湿り気を感じおにぎりができ離すと崩れる位）にし、生ごみは虫が卵を産み付けないうちに小さく切って入れ、均一になる様良くかき混ぜます。

下の表はわが家のダンボールコンポストの材料比率です。

腐葉土ベース	ピートモスベース
・ダンボール箱	・ダンボール箱
・腐葉土 5.5 k g	・ピートモス
・米ぬか 1.0 k g	・もみ殻くん炭
・もみ殻くん炭 0.5 k g	(比率は6 : 4)

当初、忙しさのあまりウっかりして何日かそのままの状態にしてしまった事もありました。恐る恐る開けてみると表面に白いカビが出ていました。後でそれは微生物がうまく働いている証拠だと聞いてホット胸をなでおろした事もありました。湿度の高い季節には虫の発生にも気をつけなければなりません。特に肥料成分に富む米ぬかにつく虫には要注意です。ダンボールコンポストによる堆肥、コンポストによる堆肥、どれも堆肥を作る原理は同じです。私のまわりにはコンポスターやダンボールコンポストで堆肥作りを経験した知り合いが最もシンプルなやり方で、例えば、腐葉土や落ち葉と生ごみを混ぜ合わせるだけで堆肥作りを試みている人もいます。

【あとがき】

今年のがが家のトマトは甘味も強く本当に美味しいものでした。これもミネラル一杯の生ごみや落ち葉による堆肥、そして自然の力のおかげかなと思っています。あなたもぜひダンボールコンポスト、落ち葉堆肥にトライし、微生物の力を感じてください。きっと美味しい野菜と元気な植物に出会うことができると思います。

そして、時々わが家の菜園へお立ち寄り下さい。ホームページアドレス：

<http://www.santome.opal.ne.jp/saien/index.shtml>

第52回生活と環境全国大会 エコ・リサ初参加

財団法人日本環境衛生センター主催により平成20年10月29、30日、埼玉県大宮ソニックシティで「広げよう環境の輪を 広げよう3Rの輪を」のスローガンのもとに述べ2230人の参加を得て開催されました。

大会前日には、関連行事として<アジア地域の3Rの推進を目指して>アジア3R自治体間ネットワーク会合「SAITAMA宣言」を発表。大会初日には式典や特別企画シンポジウム、事例研究発表会、2日目は3つのテーマに分かれての公開講座、さらに2日間に渡って生活と環境展示会が開催され、全国各地から多数の参加を得た。

■ 特別企画シンポジウム



特別企画シンポジウムは、ベトナム・ハノイ市とタイ・ピッサヌローク市から3R推進の専門家をお招きし、環境省、

埼玉県、さいたま市、開催地経済界よりキャノン電子、NPOとして埼玉エコ・リサイクル連絡会を交え、テーマ「3Rに向けてのアジア地域の挑戦Ⅲ」のもとに、基調講演、パネルディスカッションが行なわれた。



11月28日 13:00~17:00

大宮ソニック 804号室において

今年もJICA研修で7カ国の人々と

エコ・リサのデータバンク事業・ダンボール堆肥などの生ごみの堆肥化することでごみの減量化のための工夫や・ライフスタイル見直しの必要性、生活ごみの解析研究発表、環境にやさしい買い物ゲームの紹介などを行ないました。資源循環推進課からは埼玉県のごみの状況説明がありました。7名の研修生は、NPO活動の資金源についてや活動を大勢の市民に広めるための方法について、また、生ごみ処理機の性能や金額など、具体的に質問が数多く出され、交流時間が足りないくらいでした。



2008 ストップ温暖化SAITAMAフェア 彩の国子どもエコクラブフェスティバル

10月19日(日)さいたま新都心駅コンコースにて開催。「1つ1つのエコな行動が大切ですが、ちょっと雨だから、寒いからと近所に車で出かけると、日頃のCO₂削減努力が水の泡になること。地球温暖化防止のために日本では原子力発電は有効とされていますが、原料を作る段階から、プルトニウムを取り出してリサイクルするまで、それぞれの段階でたくさんの放射性ごみが排出され、使用済み核燃料再処理後の高レベル放射性廃棄物の埋立地すら決まっておらず、国はあせっている。」などを伝えました。

やっぱり「一人ひとり省エネすることがとても大切」とパネルを見ながら共感を持ってくださるご家族連れの方が多く、うれしい1日でした！持参したかさ布リサイクルの作り方のちらしは欲しい方のみ、48枚手渡ししました。(報告：大前万寿美)

お知らせ

「エコ・リサイクル交流集会2009」

—3Rでまちづくり—

<日時> 2009年2月19日(木) 午後13時～16時30分(受付12:30～)

<会場> さいたま市文化センター多目的ホール(4階)

基調講演 「川口市レジ袋の大幅削減に向けた取組」

川口市環境部廃棄物対策課 課長 渡辺洋一氏

活動発表

生ごみ問題「真の協働を目指して」

発表者：青空の下で 生ごみ研究会あさか 一なごみ農園一代表 野口久美子さん

「安行四季彩マットの屋上緑化」

発表者：安行造園株式会社 本社 緑産課 齊藤奈美子さん

「生ごみの堆肥化による野菜づくり活動」

発表者：かわごえ環境ネット 理事 原嶋昇治さん

エコ・リサ会員の方にエコ・リサ通信の今後の配信方法についてお尋ねします。
事務作業、省コストの点からmailのみの配信で構わない場合は
ecorisa-npo@fuyo-hin.com まで「エコ・リサ通信mail配信希望」として氏名・
アドレスをお願いします。

エコ・リサ 入会のご案内

NPO法人埼玉エコ・リサイクル連絡会は、幅広い環境保全型のリサイクル活動を、市民団体だけでなく、製造・流通・再生資源などの事業者、各種団体・個人が参加し、県や市町村行政とも、ネットワークを創ってすすめています。

会費(年間) 個人会員 3,000円
団体会員 5,000円
賛助会員 10,000円(1口)
協賛バナー登録 50,000円(年間)

*振込み先・会費納入の際のご注意

郵便振替口座番号 00110-7-764571

加入者名 NPO 法人埼玉エコ・リサイクル連絡会

埼玉りそな銀行 大宮支店 普通 5392559

名義 特定非営利活動法人 埼玉エコ・リサイクル連絡会

郵便振替で入金される方は、お手数ですが通信欄に新規会員あるいは〇〇会員□□年度分と明記の上、お振り込みをお願いいたします。(事務局)

事務所のご案内

〒330-0846

さいたま市大宮区大門町3-205新井ビル303号

(事務員は常駐しておりません、お問合せはFAX・メールをお願いします。)

FAX 048-642-6163 mail: ecorisa-npo@fuyo-hin.com

編集後記

今年は、海外の方との交流、聴覚障害者の方々への環境学習会など、盛りだくさんな活動の1年でした。それだけ3Rへの関心と切実さが大きくなってきたということでしょう。

これからも、地域や企業の様々なエコな取組みをこの通信でご紹介していきます。せひ、イベントなどの情報を教えてください。エコ・リサのアイドル、マイバッグちゃんと地球君が取材に行きます。もちろん、原稿と写真を送っていただければ、できるだけ掲載いたします。(大前)